

童

2021年10月29日。

朝6時、大地は真っ白な霧に包まれる季節がやってきました。幻想的です。そして、少しずつ少しずつ周囲の樹木や文庫などの建物が見えてきます。まさに、墨絵や山水画のような世界です。そして、こんな朝は、必ず、秋晴れをもたらしてくれます。

先日まで半袖で過ごしていた暑さから、焚き火コーナーや薪ストーブに火が灯るような冷え込みのあるこの頃。この気温の変化に、緩やかに対応するか即座にするか、特に注意しなければなりません。生命感覚を養うチャンスです。

低い気温に即応して、いきなり温かいジャンパーやダウンなど着てくると（大人が事前対応しすぎですが）、寒さを感じる感覚、焚き火の温かい感覚が鈍ります。寒かったら、火に近づく、身体を動かすという主体的な動きも鈍るなど、洋服に守られていると言う状態です。更に、周囲の自然環境、特に気温に適応していく身体感覚を鈍らせます。

自然の流れを感じ、肌寒さを感じながら、季節の移行を肌で知り、適応する身体を衣服ではなく、自分の感覚と身体で創っていく季節です。

そのために、温かい焚き火、焚き火料理 温かいおにぎりや味噌汁などが、ぐっとこの時期に増えてきます。転ばぬ先の杖の子育て同様、寒さを感じる前の衣服は、子ども達を弱くします。特に、高機能の洋服は。子どもは、大人よりも一枚衣類は少なくても良い と言うのが昔からの言い伝えです。この時期、どこまで薄着で頑張れるかは、大人の、まさに頑張りが問われます。

寒かったら、暖房のスイッチを入れてもらう、温かい服を着させてもらう、温かい食べ物を食べさせてもらう すべて受け身受動的な暮らしです。

薪ストーブや焚き火は、火をつけて暖まるまで時間がかかります。その間、走ったり薪を集めたりして身体を温める。そして焚き火調理の食べ物を味わう。これらは主体的能動的。

不足未熟環境こそが、主体的生きる力を生み出すでしょう。この季節、薄着で、これらの力を養ってみませんか。



【育休開始】

ガー君の育休が終了して、元気に大地に復帰して来たので、子ども達の喜びの声が連日響いています。同時に、**青ちゃんの育休！？が始まりました。**夏休み前のマ-キャンプに始まり、二学期の保育現場復帰、そして、ガー君の復帰まで。身体を労りながら、無事 **お勤め** を終了することができました。これも、ひとえに、スタッフや保護者の皆様の暖かいご支援とご理解の賜です。紙上を借りて、お礼申し上げます。

夏休み野外教室は、大地創業時を彷彿し、夫婦で関係者の力を借りながら乗り切りました。キャンプ前は、身体のこともあり、妻や親しい友人達に、キャンプは止めよう！！ と本気で説得進言されましたが・・・ 全力で過ごした夏休みは、本当に充足感と満足感そして大地創業時を再び体験でき、幸せでした。何よりも、身体が健康でしたから。やはり、気力が精神が充実していたら、身体も元気なのでしょう。病気は、心を冒さないからでしょう。

そんな勢いと自信をもとに、二学期突入。保育園勤務時代 大地創業時と同じように、毎朝弁当を持って、片道 10 秒の階段を降りて通勤。ガー君復帰までの期間、リーダーとなり、保育内容を企画して実践していく毎日が始まりました。大地創業時は、早朝草刈り 朝の清掃 保育準備 朝送迎 保育実践 帰り返迎 清掃 片付け 環境整備など、全てスタッフや妻とやってきただけに、特に問題もありませんでした。

日々の保育内容は、全てインスピレーションと天気と季節の流れと自然や作物の状態や子ども達の状態で企画し、後は、ホラとメルヘンとファンタジーで乗り切るといって、ほぼ毎日詐欺的な行為の日々。昼食後は、さすがに、休息が必要なので、子ども達には、午後は 仕事に出かける（ほとんど、カンザ-ルに皿洗いに行つて来ます）と言つて、去つて行く。「お皿割らないように気をつけてね」の子ども達の声を、背中に受けながら・・・

朝送迎から戻つてきて 9 時半。焚き火コーナーに次々に子ども達の顔が揃ってきます。そして、全員揃うと、一人一人の名前を、わざと間違えて呼んだり、しょうもないあだ名で呼んだりして盛り上げます。これは、全ての子ども達一人一人との会話です。

保育者になりたての頃、何かで学びました。子ども 20 人位を担任で受け持ち、その日の保育を終了して思い返してみよう、20 名全員と会話したか、声をかけたか、身体を触れ合ったか、眼差しを向けたかどうか、もしかすると一度も声をかけなかった子どもがいたのではないかと、つまり 子どもは保育者に声をかけられたり遊んでもらえなかったり、つまり、存在を認められなかったりした子どもがいなかったかどうか、などを必ず振り返ってみよう と学びました。内気な子ども、芸術的な子ども、静かに感じる子ども 四つの気質の秋や冬の子ども達は、そんな犠牲者になりかねません。

大地は、担任制でなくグループ保育で、スタッフが 4 人ほどおり、あちこちで手厚く受け持ってくれるので、へたをすると、上記のリスクが高まる危険性があります。それだけに、朝の会始まる前の、全員一人一人との訳のわからない名前間違え会話などを楽しみました。それだけでも、全員に眼差しと心、そしてあなたの存在を認めたと自負できるからです。夜眠る時、全員に声をかけたか、全員と話したか、全員と遊んだか・・・ 自問自答することが義務です。

そして、子ども達一人一人の行動パターンや気質を見抜くことができました。これが大切なポイントです。これを知れば、誰でも、一人で 25 名の子どもを動かすことができるし、見守ることもできます！？ そうです、青ちゃんはできます！！

例えば、一番小さい子どもの面倒を、大きい子どもの誰に見てもらおうか、この場所環境では、どの子は、いつもどんなパターンで遊ぶか、などを把握しておけば、ほとんどの状況が予測できて、事前対策マネジメントできるのです。

その子の好きな遊び お気に入りの場所 興味

あること 夢中になる物 などを知っていれば、それを準備してあげるだけで安心安全なのです。だから、**敵を知る** ことが、安心安全への勝利を手にする事なのです。

更に絶対大切な不可欠なこと。それは なるべく「**禁止用語**」を使わないことです。人間、駄目だと言われたら、逆にやってみたくくなります。魅力的だからこそやっているのです。だから、更に 楽しいことに心をそらすことを提言する 「**〇〇したほうが良いよ**」 という提言です。「止めなさい」「それは駄目」「やってはいけません」などの禁止言葉よりも、「こっちのほうが面白そう」「じゃあ こうしてみよう」などと、浮気用語？ を連発して見ませんか。

ただ 気をつけることは 必ず結果を出してあげること。やはり、この人の提言は面白い、結果的には、この人の言うことに従えば、面白い魅惑的だ、という子どもからの信頼を勝ち取ることで。

私たちも、愛する人 尊敬する人 の話や誘いには、必ず乗りますよね。金や物で煽られると結果的には不幸になり

ます。子ども達も物や食べ物ではありません。手間暇と眼差しとメルヘンとファンタジーそして ホラ と信頼です。